

社会科の学びの本質に迫るICTの活用

「社会的な『見方・考え方』を働かせる」ために

- ① 「問い」の共有…「なぜだろう」「どうしたらいいだろう」
- ICT: 協働学習支援ツールを用いた資料送付
大型提示装置による事象提示
協働学習支援ツールによる「問い」「予想」の共有
- ② 必然性を生み出す仕掛けづくり…「視点別に、比べると…」
- ICT: 思考ツールを用いた思考の整理（個別最適な学び）

【POINT】 問いや予想の共有

気付いたこと、不思議に思ったこと、問いについての予想等を端末上に書き込み、クラウド上で共有する。



【POINT】 端末上の思考ツールを用いて、視点に沿って、比べ、分類し、関連付けて考える。



- ・リボンチャートで事実を視点ごとに分類し、整理する。
- ・結びつきを掴む。



- ・マトリクス表で考えを視点ごとに分類し、整理する。
- ・視点を入れ替えて考える。

「根拠や理由を明確にして論理的に考えたり、説明したりする」ために

- ① 根拠や理由は、事実に基づいているか。
- ICT: インターネットによる情報収集
Web サイト (URL) の提示、検索ワードの例示
- ② 事実と主張 (考え) は、飛躍なく結びついているか。
- ICT: 端末を用いた個の考えづくりと共同追究による検証

【POINT】 確かな事実の獲得

- ・ Web サイト (URL) の提示
公官庁、学習用サイト等
- ・ 検索ワードを例示する。

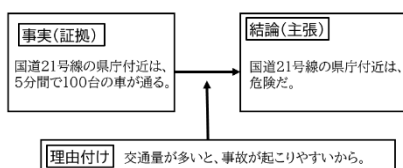
【POINT】 端末上で「根拠や理由を明確にして考えをまとめる図」を操作して、考えづくり・検証

個

- ・ 端末上に図を示し、操作しながら考える。
- ・ 事実から考えられること (意見) を明らかにする。

協働

- ・ なぜそう考えたのか (根拠) を明らかにする。
- ・ 事実、意見、理由・根拠のつながりを見直す。



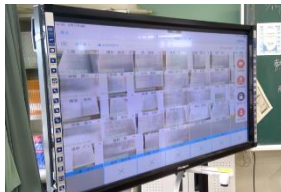
クラウド共有 端末を示す。
繰り返し追記、編集する。



「多面的・多角的に考察する」ために

- ① 対話的な学び、考えの共有
- ICT: 思考ツールと協働学習支援ツール (共有) を用いた共同追究 (対話的な学び)

【POINT】 共有機能を活用した共同追究



- ・ 共有 (同時) 編集機能を活用する。
- ・ クラウドや大型提示装置で、思考ツールやノートの記述を共有する。
- ・ 互いの考え (立場、見方・考え方) を出し合い、議論を深める。

ICTを効果的に活用した教材開発の例（中学校）

活用① アンケート機能を活用した実態把握

単元の導入時、または、既習内容の定着状況に関する生徒の実態について、アンケート機能を使って把握する。これにより、教材開発に関わって以下の2点が期待できる。

- (1) アンケート機能を使って既習内容（知識）に関わる問題を出題することで、単元に関わる学習内容の定着度を把握し、単元構成や指導方法を工夫することができる。
- (2) アンケート機能を使って資料活用能力に関わる問題を出題することで、単元で提示する資料について、生徒の実態に合わせた難易度に設定したり、指導・援助を工夫したりすることができる。

中学校歴史「古代国家の歩みと東南アジアの世界」
合計点 0/30点
小学校で学んだことを振り返ってみましょう

× ア（聖武天皇）、イ（藤原道長）、ウ（聖徳太子）の人物を、正しい時代に並んでいるものを選びましょう。

アーイーウ
 ウーイーア ×
 イーアーウ
 ウーアーイ
 アーウイー
正解
 ウーアーイ

分析情報
平均 37.143ポイント
中央値 40.000ポイント
範囲 29-50ポイント

全体の傾向や一人一人の実態を把握することで、単元構成、一人一人に応じた指導・援助をくふうすることができる。

単元に関わる実態（知識及び技能の定着状況）について、アンケート機能でテストを作成して把握する。
即時評価

活用② Web 会議システムを活用した遠隔地にいる方との対話的な学び

生徒主体で設定した課題に対して、資料を基に追究し、考えを集約する。

生徒が集約した考えを現地の方に聞いていただいた後、現地の方の考えを聞く。

【Web 会議システムの活用】

現地の方の考えを受け、さらに質問したり、やり取りをしたりすることで、学びを深める。

生徒A：
起業がカギとなっていることは分かったけれど、起業する人はなぜ〇〇村を選んだのだろうか？

生徒B：
過疎地域なのに、「持続可能な社会に繋がる」とは、どういうことだろうか？

現地の方が左記のように、生徒からの質問に対してその場で回答することで、学びを深めることができる。

